

## 【コラム：有害物質を誤って土壌に直接こぼしてしまった場合の応急措置事例】

### ○有害物質を土壌にこぼしてしまった状況

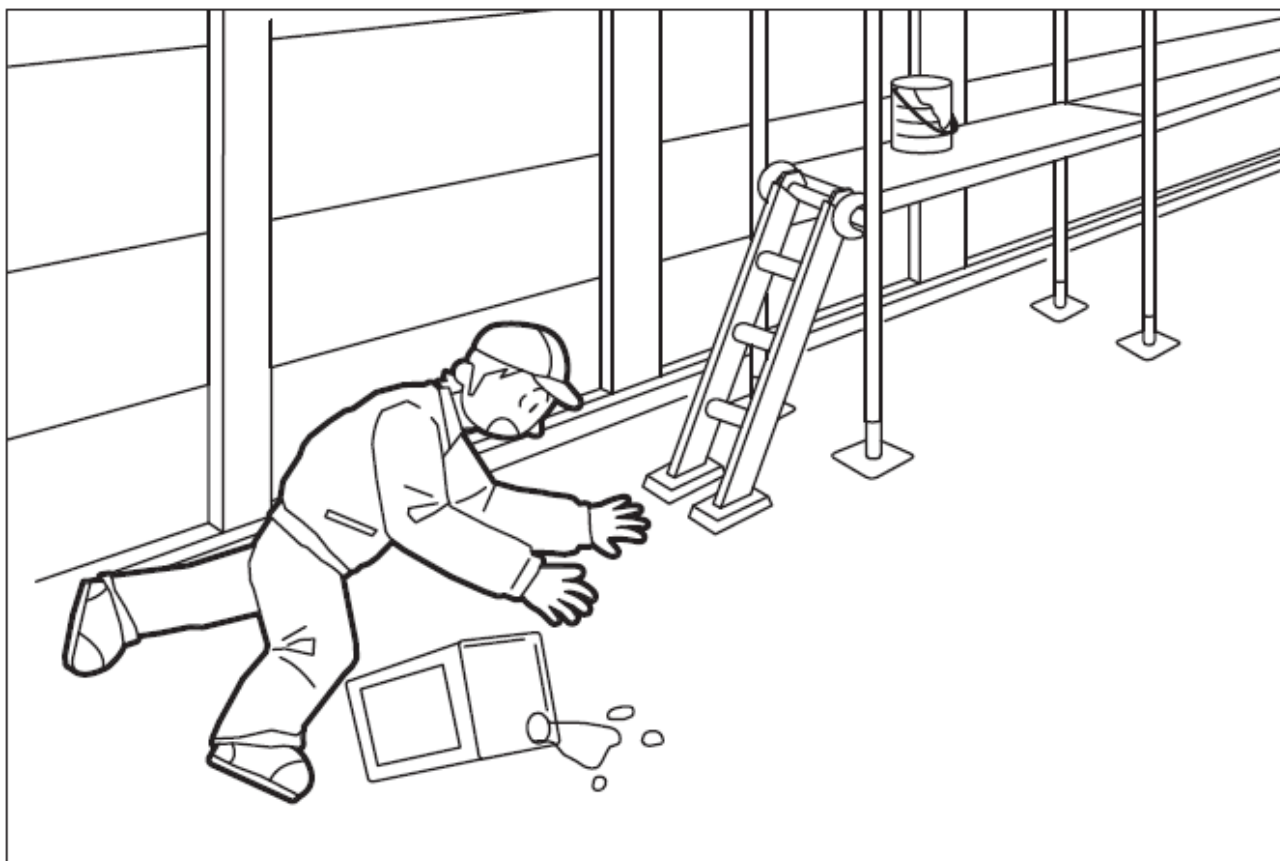
マンションの外壁の塗装作業中に塗料缶が倒れて、塗料を土壌にこぼしてしまった。

施主から、専門機関による土壌汚染調査を行って土壌汚染状況を確認するとともに、土壌汚染対策が完了するまで塗装作業を停止するよう指示された。

応急措置を含め、今後どのような対応をすればいいのかわからない。早く塗装作業を再開できるようにしたいのだが・・・

### ○有害物質を土壌にこぼしてしまった直接的な原因

- ①塗料缶を仮置きした場所は、地表面が凸凹であった。
- ②塗料缶を仮置きした場所にブルーシートを敷いておらず、バリケードで囲っていなかった。
- ③塗料缶の蓋をきちんと閉めていなかった。



## ○応急措置

- ①こぼれた塗料をできるだけウェスで拭き取った。なお、使用したウェスは適正に処分した。
- ②こぼれた塗料は液体なので地中に浸透するが、こぼした直後はまだ深く浸透していない可能性が高いので、速やかに塗料が浸透したと思われる範囲の土壌を色や臭気で判断しながら掘り上げて、密閉容器に保管した。
- ③こぼれた範囲を速やかにバリケードで囲って立入禁止とした。
- ④こぼれた範囲を速やかにブルーシートで覆った。（雨水等による流出防止、土壌中への浸透防止、臭気防止等の影響を最小限にした。）
- ⑤その後、速やかに自治体の環境担当部局に状況を報告し、今後の対応を相談した。

## ○上記の応急措置の実施にあたって留意した事項

- ①こぼれた塗料の有害性、取扱の注意、廃棄する場合の留意点などについて MSDS（化学物質等安全シート。事業者が特定の化学物質を含んだ製品を他の事業者に出荷する際に添付しなければならない安全情報を記載したシート）等で確認した。
- ②火気厳禁で作業した。
- ③掘り上げた土壌を密閉した容器は、関係者以外が立ち入れない場所に保管した。

